

福岡

地域福祉活動職員の

# まなこ

地域福祉活動推進のため

No. 70      2011年1月発行   福岡県地域福祉活動職員連絡会

《地職連研修事業2010》 コミュニティワーカー養成研修会

**コミュニティワーカーは  
「火吹き竹を拭く人」  
どこを吹けば火が起こるか、  
見極めながら火を起こそう。**



**中津市沖代校区の取り組み**  
きっかけは住民の相談

沖代校区は、もともと地縁組織がなく、住民同士の関係性が薄い地域でした。それに不安を感じた住民の相談から、老人給食ボランティア（弁当づくりと配食）が始まりました。また、公民館ができたことを機に住民の交流ができたらと週に1回公民館を利用し「すずめサロン」を開催。



**地域課題に対する  
住民の取り組みと  
社協の関わりについて**

■吉田瑞穂氏(中津市社協)

県地職連が主催する「コミュニティワーカー養成研修会」。「コミュニティワーカーの8つのモデルをもとに、社協ワーカーの技術や視点について学んでいます。3回目は事例をもとに、「コミュニティワーカーの役割を学びました。」

★報告／那珂川町社協 升本

**空き家を借りて立ち上げた  
沖代寄り合い所「すずめの家」**

「沖代すずめ」は、バザーの収益金を元に校区の真ん中あたりの空き家を借り、知り合いの家に行く感覚で、日常に近い形で開かれた場所として沖代寄り合い所「すずめの家」を開所しました。

この時に吉田さんは家賃の交渉に立ち会い、通常4万円の家賃を1万8千円で借りることができたそうです。

「すずめの家」は週に2回開催されます。参加者の多くは高齢者ですが、育児中のお母さんの参加もあり、住民のよいあい場になっています。また、ボランティアの受け入れもしており、人材育

これが地域ボランティアグループ「沖代すずめ」の発足のきっかけとなり、男性料理教室やミニデイ、リサイクルバザーなど、次々と形にされてきました。

平成10年には障がい者サロン「鈴の音」を開始。他地区の障がい者の参加も多く、沖代校区だけでの問題ではないということから、平成19年に社協の事業に移行したそうです。

吉田さんは「住民が起こした活動を社協が事業化していくことは社協事業の基本的なスタンス。社協が考え、提案していくよりも住民が必要と思う事を社協として展開していくと協力してくれる人材も多くなるのでは」と話されました。

成の場にもなっているとのことでした。  
 また、特養から認知症の方を外出させたいという話を聞き、週に1回のアウトデイを受け入れました。これで、すずめの家に来ている認知症の方も一緒に受け入れてもらい、さらに認知症の方の対応を学べることになりました。  
 また住民参加型の有償サービスを立ち上げ、家事援助・話し相手・見守りなど、個人のニーズに対応するなど、住民主体の活動が広がりを見せています。

「沖代のなかま」と

「沖代校区ネットワーク協議会」

市と社協と住民でボランティアや活動に参加してほしい人と呼びかけ、福祉計画・活動計画づくりを進めました。これを2年間続け、福祉に対する意識や、活動を支えていく基盤として地域のネットワークの必要性を認識することができ、「沖代のなかま」を結成。住民に活動を知ってもらい意識を高める活動として、住民による新聞づくり(全戸配布)や、人材育成を目的に男性が集まるサロンの開催などを行いました。

さらに、計画づくりから3年後、「沖代校区ネットワーク協議会」が発足し、話し合いの場が持たれているそうです。そして、福祉課題に気づくように、研修なども行われているそうです。

また、住民の活動として事務局機能の必要性から、公民館の一室を活用し

週1回、住民がコーディネーターとして座る「沖代コミュニティセンター」《あいがも》を開設されたそうです。

社協は住民活動を側面的に支援

活動の目的の整理も大切

沖代校区の活動の経過を通して親た社協の関わり・視点としては、①人が集まる場を通して課題が解決できている、②住民の気づきが重層的な実践を展開し、面で支えるネットワークが自然にできている、③実践を支えるために地域のネットワークが必要、④拠点の場所の重要性(みんなが行ける場所)、⑤活動のモデル化(他地区へ広がり)、⑥活動の目的を見失わないための支援の、6点を挙げられました。

また、地域活動を目的別に整理し、改めて住民に示すことで活動の意味を再確認してもらったり、他地区にも伝えやすくなり、活動の目的が見失われにくくなるので、活動の整理も社協の役割なのではないかと言われました。

ワーカーの関わりとしては、活動しやすい環境整備や周囲への働きかけ、手を出しすぎないこと、少し距離を置き活動の中身や目的を整理して伝え、確認していくことだと話されました。

社協ワーカーとは…?

「火吹き竹を吹く人」

「このままじゃいけない」と気づいて

いる人は必ずいます。その気づきを押し上げ、自分がやったと思えるように支援をしていると言われました。

また、組織化する際には「何のための組織化か?」という事を忘れてならない。自分の存在が認められていると住民が感じられる地域であることを常に意識して組織化をしているとのことでした。

また、住民による活動が安易に行政施策の一環として吸収されないよう、社協が地域福祉のすすめ方など提言し、行政

廃校となった旧小学校を

地域福祉の拠点へ再生させた

小規模多機能ホーム”絆”について

■津川則光氏 (下矢部西部地区社協)



健康体操、昼食会、宿泊体験…

住民をつなげる”絆”

下矢部西部地区は、合併に伴い小・中学校が廃校となり、子どもとの接触がなくなった地区です。20〜30代が極端に少

にわかってもらうことが必要であるとも言われていました。

ワーカーとして「人づくり、関係づくり、場づくり」を意識することが大事だと言われ、人づくり、場づくりをする関係ができてくると言われました。

最後に「コミュニティワーカーとは?」の問いに、どこに風が吹いたら火が起ころのかを見極めながら火を起こしていくようなイメージで「火吹き竹を吹く人」と答えられたのが印象的でした。

なく、10〜20年先に変なことになるという危機感を持ちながら、支え合いの体制づくりを目指し、廃校になった小学校を拠点とした「小規模多機能ホーム絆」を立ち上げました。

「絆」での活動は、高齢者の生きがいと健康づくりとして健康寿命を延ばすことの大切さと、支え合いの大切さの理解を高めていこうと、健康体操や脳トレ、昼食会などそこに行けばみんな楽しんでながら健康でいられるようにと様々な活動が行われています。

災害時における宿泊体験も行っています。この地区は以前に3度も水害に遭い、120人の方が2泊ほど避難したことがあるそうで、不安の解消のために実施し、毎回10人程度で泊まる練習を行っています。その時には必ず10人のうち3人ほど1人暮らし、2人暮らしの高齢者に入ってもらいます。そ

の時にミニ福祉相談として、様々な悩みや困りごとを話してもらい、それを聞きながらみんなで支えていく活動を行っているそうです。

また、世代間交流、河川の美化活動や餅つき大会などを行い、子どもと一緒に一人暮らしの高齢者宅に餅を配るなど行っているそうです。

そして、ふれあい芸能まつりなど他地区との交流、住民が集い、新しい発見や楽しさと喜びを生みだしてもらえればと実施しておられるそうです。

**買物ができない!**

**移動販売者と移動端会議**

また、地区に8軒あった商店が今では2軒しかなく、買物に行くには、3〜6キロあり、買物が困難になっています。そこで隣町から移動販売車に来てもらい、買物後、集まって茶話会を楽しんでいる「移動端会議」や、買物の時に、ちゃんと買物物ができているか? 買物物にきているか? という見守りの場になっているそうです。

**問題は山積…しかし、**

**1人の百歩より百人の1歩**

一方で、集落の機能の低下、老人クラブの弱体化、若い人の意識の希薄化など担い手の問題など、活動をしていくことで見えてくる課題もあります。それでも1人の百歩よりも百人の1歩を目指し、地域福祉の意識を高めること

をやっていききたいとのことでした。

また、住民の意識調査としてアンケートを実施したところ、住民の気持ちがよくわかり、これからの地域おこし・地域福祉に役立てたいと話されていました。

**”絆”のこれから…**

**経済的コミュニティ開発も**

「絆」のこれからとして、●誰でもいつでも気軽に集える、地域の支え合いの拠点、●生活必需品が買える地域コンビニ、●地域の食材を使った特産品開発・加工販売、●高齢者の生きがいづくりとして小規模作業所、●自然を活かしたグリーンツーリズムを挙げられました。

中でも、少ない年金で生活している人たちが少しでも稼げるように小規模作業所を始め、特産品の開発や加工品販売などを行いながら、健康づくり以外でも収入を得るといふ生きがいづくりを見出し、ていきたいと言われてました。

津川さんは「今、一生懸命やらないと地域を語る仲間がいなくなる。人材発掘をしていき、地域福祉・地域おこしに頑張っていきたい」と話されていました。

**稲葉先生のコメント**

**プロセスの重要性、経済活動…**

沖代校区の関わりでは、社会計画の必要性が明確にでており、市とともに福祉計画・活動計画づくりを一緒にやっている中で、住民に計画づくりの目的を伝

え、住民のニーズを幅広くすくいあげながら、優先順位を付けていくという機会をもったそのプロセスがとても重要で、そのことがいろんな活動に結びついていくのではないかと言われました。「近隣コミュニティの組織化」「社会計画」などのCWモデルのようです。

また、下矢部西部地区に関しては、福祉の範囲では限界があり、枠を越えて経済活動と連携し雇用を生み出すような仕組みをつくらなければならぬのではと話されていました。つまり「社会的・経済的コミュニティ開発」のCWモデルが必要となってきました。

貧困や格差が拡大する社会において、社会的弱者に対する経済活動(雇用創出など)へのさまざまな取り組みは、これ

からの社協が重要な役割を担う領域だといえます。

**○感想**

住民の気付きを大切にし、住民主体となる活動へ導く吉田さんと住民との関わり方、活動がぶれないための支援など、自分に足りないものが、多々あったので参考にしたいと思いました。

また、下矢部西部地区で実施されたアンケートでの意識調査では、私が思ったよりも意外な結果が…

自分たちの地域をどう思い、何に困って、どういう強みがあるのかなど、今の住民の気持ちを知る意味で、アンケート実施の必要性を強く感じた研修となりました。

■M. ウェイルら「8つのCP実践モデル」(1995, 1996, 2005)

	8つの領域	コミュニティワーカーの役割
①	近隣・コミュニティの組織化	オーガナイザー・ファシリテーター・教育者・コーチ
②	機能的コミュニティの組織化	オーガナイザー・アドボケイト・伝達者・ファシリテーター
③	社会的・経済的コミュニティ開発	交渉者・促進者・プランナー・教育者・マネージャー
④	社会計画	調査員・事業立案者・伝達者・プランナー・マネージャー
⑤	プログラム開発/コミュニティとの連絡・調整	スポークスパーソン・プランナー・企画書執筆者・マネージャー
⑥	政治的・ソーシャルアクション	アドボケイト・オーガナイザー・調査者・候補者
⑦	連携化	媒体者・交渉者・スポークスパーソン
⑧	社会運動	アドボケイト・ファシリテーター

## 九州社協合同研修会

★社協に働く各業務職員（ホームヘルプ、ケアマネ、権利擁護、CWなど）の方々の参加をお願いします！

## 社協の総合力を生かす～これぞ社協の底力～

「内閣府新しい公共円卓会議」では「社協は行政依存度が高く非効率」と名指しで指摘しています。一方で厚労省や総務省が出す報告書では社協が目指し取り組んできた「まちづくり」手法やその大切さを指摘し推進する方向での模索がなされています。研修会では、社協がもつ「総合力」に焦点をあて、「社協だからできること」を考えたいと思います。

■と き／平成23年2月26日(土)～27日(日) ■ところ／原鶴温泉パーレンス小野屋(朝倉市)

■参加費／3,000円(宿泊費・交流会費等別) ■定員／100名

■講師／小野達也先生(大阪府立大学社会福祉学科准教授)

■研修スケジュール／

	14:00	15:30	18:00	9:00	10:40	13:00
26日(土)	講演「地域福祉を取り巻く情勢と、社協にかかる期待・危機」	パネルトーク「各業務の現状と課題を共有し、連携を模索しよう」※	交流会	27日(土)	講演「社協の総合力を生かす～これぞ社協の底力～」	全体会 質疑 まとめ

※パネラーはケアマネジャー、ホームヘルパー、コミュニティワーカー、権利擁護・生活福祉資金の担当職員

〔主催〕福岡県地域福祉活動職員連絡会

〔申込み・問合せ〕小郡市社会福祉協議会 〒838-0126 福岡県小郡市二森1167-1

TEL 0942-73-1120 FAX 0942-72-5694 Mail o.shakyo.somu@ari.bbq.jp

〔後援〕大分県市町村社協職員連絡協議会 佐賀県市町社会福祉協議会職員連絡協議会  
長崎県市町社会福祉協議会連絡協議会

## 福岡県地域福祉活動職員連絡会 研修事業

## コミュニティワーカー養成研修会 (最終回)

とき／1月22日(土) 13:00～17:00

会場／福岡市市民福祉プラザ

内容／コミュニティワーカーに求められるもの

〔参加費〕 無料

〔対象者〕 社会福祉協議会の地域福祉担当職員

〔講師&コメンテーター〕

稲葉美由紀先生(九州大学大学院言語文化研究院准教授)

## 編集後記

— 編集者のついでさき —

あるボランティアのお話です。

「1年程前から車イスの方とある病院に行っています。その病院の入口にはスロープがありますが、いつもスリッパがたくさん置いてあるので、すぐには病院の中に入れません。1年ぐらい通っているのに『もう少し配慮してくれてもいいのよ』というも思います。

別の車イスの方とは、ファミレスに1年位通っていました。ここにもスロープがあります。自動ドアではないので、車イスを押しながらドアを開けて入るので

すが、ドアにストッパーがないので入りにくいのですね。しかし、しばらくしてストッパーが付き、とても入りやすくなっていました。

その病院とファミレスの違いは何か。きっとファミレスの店員は、ドアにストッパーがあれば入りやすいということに気づいたのだと思います。

大切なのは「気づき」。「気づき」がいやりになり、「気づき」があるから改善しようとするのだと思います。

この話を聴き、社協ワーカーにも通じるものを感じました。全ての地域福祉活動は地域の課題に「気づく」ことから始まるのでは、では問題に気づく力を得るには？一つは同じ社協ワーカー同士のつながりによって得られるのではと思っています。(U.Y)

## ★発行者

福岡県地域福祉活動職員連絡会

## ★事務局

〒838-0126 福岡県小郡市二森1167-1

小郡市社会福祉協議会内

TEL 0942-73-1120

FAX 0942-72-5694

E-mail f\_chishokuren@yahoo.co.jp

URL http://www.geocities.jp/

f\_chishokuren/